

大学保健管理センターにおける心理相談 —外国人留学生の調査結果—

小島奈々恵¹⁾, 岡本百合¹⁾

キーワード：心理相談, カウンセリング, 外国人留学生

Psychological consultations at a university health service center:
Questionnaire results of international students

Nanae KOJIMA¹⁾, Yuri OKAMOTO¹⁾

Key words: psychological consultations, counseling, international students

I . はじめに

近年,多くの外国人留学生が日本を訪れており,平成26年5月時点で18万人を超えている¹⁾。留学生の増加に伴い,各大学では留学生支援を充実させている。平成21年度以降1000名前後の留学生が在籍している広島大学においても同様であり,平成23年度より留学生担当カウンセラーが保健管理センターに配属され²⁾,各学部・研究科の教職員や,国際センター,ハラスメント相談室,キャリアデザインセンターの学内専門機関や,病院等の学外専門機関と連携し,留学生を支援している³⁾。留学生に多くの相談窓口を提供し,留学生が抱える様々な問題に適当な専門性を持った人や機関が対応できるよう試みている。その中で,保健

管理センターは留学生の心身の健康に関する役割を担っており,留学生の健康診断,診療,応急処置,精神的・心理的ケアなどを行っている。本研究では,保健管理センターにおける心理相談に着目し,平成24年度から平成26年度の実態について報告する。また,留学生支援の課題について考察する。なお,平成24年度については,第50回全国大学保健管理研究集会にて発表した⁴⁾。

II . 方法

1. 分析対象者

平成24年度の分析対象者は,外国人留学生495名(男性258名,女性237名;平均年齢26.8歳, $SD = 5.0$, $RANGE = 18-53$,不明2名)であった。院生310名,学部生50名,研究生100名,その他35

1) 広島大学保健管理センター

1) Health Service Center, Hiroshima University

名であり、平均大学在籍期間は20.7カ月($SD = 17.0$, $RANGE = 2-92$, 不明5名)であった。

平成25年度の分析対象者は、外国人留学生567名(男性261名, 女性301名, 不明5名; 平均年齢26.9歳, $SD = 4.8$, $RANGE = 19-45$, 不明8名)であった。院生363名, 学部生36名, 研究生96名, その他72名であり、平均大学在籍期間は20.0カ月($SD = 17.6$, $RANGE = 2-108$, 不明13名)であった。

平成26年度の分析対象者は、外国人留学生608名(男性287名, 女性320名, 不明1名; 平均年齢26.7歳, $SD = 4.6$, $RANGE = 19-44$, 不明1名)であった。院生398名, 学部生30名, 研究生101名, その他79名であり、平均大学在籍期間は18.6カ月($SD = 14.7$, $RANGE = 2-109$, 不明6名)であった。

全ての年度において、順に、中国、インドネシア、韓国からの留学生が多く、分析対象者の62.3-66.9%を占めた。なお、平成24-26年度の間、60-69か国からの外国人留学生が広島大学に在籍していた。

2. 調査手続き

広島大学に在籍する全外国人留学生に「留学生の学習と生活に対する支援調査」を配布(送付)し、回収した。具体的には、平成24年度は1081名, 平成25年度は1110名, 平成26年度では1157名に質問紙を配布した。各年度の回収率は、順に、

45.8%, 51.1%, 52.5%であった。

3. 質問紙内容

国際センター(国際化の推進・実施を支援し、国際交流活動の推進を図ることを目的に、留学生の受け入れと派遣に係わる教育や指導等を行うセンター)、キャリアセンター、ハラスメント相談室、保健管理センターに係わる項目、留学生の学習や生活に係わる項目などから、質問紙は構成されていた。本研究では、保健管理センターにおける心理相談に係わる項目について検討した。

具体的には、留学生が抱える問題(学生生活の中で困っていることがありますか。)や相談相手(困ったことがあるときには、おもに誰に相談しますか。)、保健管理センターが提供する心理相談の認知度と利用経験(知っていますか。相談したことがありますか。)、満足度(利用したことがある方にお尋ねします。支援に満足されましたか。)について回答させた。また、心理相談については、悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思うか思わないか回答させ、受けようと思わない理由についても回答させた。

Ⅲ. 結果

1. 外国人留学生が抱える問題と相談相手

留学生が抱える問題を表1に示した。経済的なことについて38.8-46.1%, 学習や研究について37.4-38.7%, ことばや習慣について37.0-38.0%,

表1. 外国人留学生が抱える問題

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
経済的なこと	228	(46.1)	220	(38.8)	267	(43.9)
学習や研究のこと	185	(37.4)	214	(37.7)	235	(38.7)
ことばと習慣	183	(37.0)	210	(37.0)	231	(38.0)
人間関係	85	(17.2)	82	(14.5)	100	(16.4)
心に関すること	46	(9.3)	51	(9.0)	63	(10.4)
身体に関すること	45	(9.1)	36	(6.3)	50	(8.2)
その他	55	(11.1)	63	(11.1)	62	(10.2)

人間関係について14.5-17.2%，心に関するることについて9.0-10.4%，身体に関するることについて6.3-9.1%の留学生が問題としていた。また，学内の外国人留学生（平成24年度から平成26年度を順に，62.2%，58.2%，58.1%），母国の家族や友人（順に，57.6%，53.1%，58.1%），指導教員（39.0%，33.3%，30.9%）に相談するという回答が多い中，3.4-4.4%（順に，3.4%（17名），3.9%（22名），4.4%（27名））が「相談する人がいない」と回答した。すなわち，多くの留学生が経済，修学，文化に関する問題を抱えており，身近の外国人留学生や母国の家族や友人に相談していることが示された。また，相談できる相手がいない外国人留学生がいることも明らかとなった。

2. 心理相談の認知度と利用経験，および満足度

心理相談の認知度と利用経験を表2に示した。85.0-87.5%の外国人留学生が保健管理センターで

心理相談が提供されていることを知っており，6.9-8.9%が利用したことがあると回答した。その一方で，9.9-12.5%の留学生が，心理相談が提供されていることを知らなかった。保健管理センターで提供されている心理相談を利用したことがある外国人留学生のうち，59.3-71.8%が満足しており，7.4-11.4%が満足していなかった（表3）。

3. 留学生のためのカウンセリングの認知度と利用

保健管理センターで提供している「心理相談」と，同じく保健管理センターで提供している「留学生のためのカウンセリング（英語と日本語で対応）」が，異なるものとして認知されている可能性を考え，平成25年度と平成26年度の調査では，「留学生のためのカウンセリング（英語と日本語で対応）」の認知度について別項目を用意した。その結果，英語と日本語で対応する留学生のため

表2. 心理相談の認知度と利用経験

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
知っています。利用したことがあります。	35	(7.1)	39	(6.9)	54	(8.9)
知っていますが，利用したことはありません。	388	(78.4)	443	(78.1)	478	(78.6)
知りません。	58	(11.7)	71	(12.5)	60	(9.9)
回答なし	14	(2.8)	14	(2.5)	16	(2.6)

表3. 心理相談利用者の満足度

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
満足している	21	(60.0)	28	(71.8)	32	(59.3)
どちらでもない	6	(17.1)	4	(10.3)	13	(24.1)
満足していない	4	(11.4)	4	(10.3)	4	(7.4)
回答なし	4	(11.4)	3	(7.7)	5	(9.3)

のカウンセリングについて知っている外国人留学生は、平成25年度は60.3% (342名)、平成26年度は63.2% (384名)であった。

悩みごとがあったときに、カウンセリングを受けようと思う外国人留学生は69.8-73.5%、受けようと思わないが25.5-28.9%であった(表4)。カウンセリングを受けようと思わない留学生にその理由を求め、整理した結果を表5に示した。「自分で解決する」と回答した者が12.7-28.3%、「友人に相談する」と回答した者が15.9-18.6%と多かった。また、「問題がない」「相談の必要がない」と11.0-14.4%が回答した。「カウンセリングに対する不信感(1.4-4.8%)」や「問題を解決できないと思う(0.0-9.2%)」というカウンセリングに対するネガティブな印象や、「言語問題(3.7-4.4%)」や「文化差(0.0-1.4%)」など異文化環境での相談の難しさが窺われた。なお、「必要に応じて相談する」と回答した者も1.9-2.1%いた。

IV. 考察

本研究では、外国人留学生が抱える問題および保健管理センターにおける心理相談に関する外国人留学生の認知度について検討した。

1. 外国人留学生が抱える問題と支援資源

多くの外国人留学生が経済、修学、文化に関する問題を抱えていた。人間関係や心に関する問題を抱えている留学生も少なくなく、9.0-17.2%いた。留学生が抱える問題は、どれも関連していることが推測される。例えば、ことばや習慣など文化に関する問題は、指導教員とのコミュニケーションの取り方すなわち研究に影響することが考

えられるし、人間関係の持ち方にも影響することが考えられる。察することが求められる日本では、多くを語らないことがある。しかし、言葉で伝えることが重要視される国(文化)からの留学生には、察することが難しく、話してくれない日本人に苛立つことがあるかもしれない。その一方で、同じく、察することが重要視される国(文化)からの留学生は、自身の気持ちや考えを伝えることができないことがあり、指導教員等に質問することを躊躇するかもしれない。どちらの場合でも、留学先である日本での生活が難しくなることが推測される。

しかし、多くの留学生には相談相手があり、家族や友人に支えられ、問題解決を試みていることが推察された。指導教員に相談する留学生も30.9-39.0%おり、学生と指導教員の関係が良好であることや、相談しやすい環境を指導教員が提供していることが窺われた。その一方で、相談する相手がいない外国人留学生が3.4-4.4%おり、無視できない数字である。何らかの問題が生じたときに、サポートを留学生自身がお願ひできる者がいないと理解できる。また、学修することを目的に留学してきた外国人学生にとって、その学修を支える教職員や、同じ研究室の学生は、留学生が頼りたい存在であると考えられる。しかし、3.4-4.4%の留学生は、身近な教職員や学生、他の窓口に頼ることができず、一人で問題を抱えていることが明らかとなった。相談方法が分からない、相談内容の言語化が難しい、相談できるほど信頼関係が構築されていないなど、問題を抱える留学生自身の特性によって、相談する相手がいないのかもしれない。しかし、相談できる環境が提供されてい

表4. カウンセリング希望有無

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
受けようと思う	364	(73.5)	396	(69.8)	443	(72.9)
受けようと思わない	126	(25.5)	164	(28.9)	160	(26.3)
回答なし	5	(1.0)	7	(1.2)	5	(0.8)

表5. カウンセリングを受けようと思わない理由

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分で解決する	41	(28.3)	40	(18.6)	29	(12.7)
友人に相談する	23	(15.9)	40	(18.6)	42	(18.3)
家族に相談する	11	(7.6)	16	(7.4)	24	(10.5)
教員(職員)に相談する	9	(6.2)	6	(2.8)	8	(3.5)
他者・他機関へ相談する	0	(0.0)	6	(2.8)	10	(4.4)
カウンセリングに対する不信感, 不安	7	(4.8)	3	(1.4)	4	(1.7)
問題を解決できないと思う, 相談する意味がないと思う	0	(0.0)	8	(3.7)	21	(9.2)
言語問題, 問題が伝わらないと思う	6	(4.1)	8	(3.7)	10	(4.4)
文化差	0	(0.0)	3	(1.4)	2	(0.9)
相談機関のことを知らない	0	(0.0)	6	(2.8)	7	(3.1)
忙しい, 時間がない	6	(4.1)	5	(2.3)	5	(2.2)
経済的問題のみ	3	(2.1)	0	(0.0)	2	(0.9)
相談したことが知られたときの心配, 相談することが迷惑と思う	2	(1.4)	3	(1.4)	1	(0.4)
ネガティブ感情(嫌, 恥ずかしい)	2	(1.4)	1	(0.5)	6	(2.6)
知らない人(外国人)に相談したくない	10	(6.9)	10	(4.7)	5	(2.2)
相談する習慣がない, 相談できない	2	(1.4)	6	(2.8)	6	(2.6)
問題ない, 相談の必要がない	16	(11.0)	31	(14.4)	27	(11.8)
必要に応じて相談する	3	(2.1)	4	(1.9)	3	(1.3)
理由なし	1	(0.7)	14	(6.5)	10	(4.4)
その他	3	(2.1)	5	(2.3)	7	(3.1)

ない、相談できる関係が構築されていない、言語問題等の要因も考えられ、外国人留学生の受け入れ体制の改善も必要である。例えば、留学生会に関する情報提供や、学内に設置されている相談窓口に関する情報提供は重要である。保健管理センターとしては、問題を抱える留学生に、教職員が気づき、適切な支援を提供できるように、支援者側への情報提供やトレーニングの場 (FD/SD) を提供することが重要となる。必要に応じて、問題を抱える留学生にはアウトリーチしていく必要があり、チームで支援することも忘れてはならない。

2. 心理相談の認知度と満足度

保健管理センターで心理相談が提供されていることを85.0-87.5%の外国人留学生が知っており、6.9-8.9%が利用したことがあった。留学生のためのカウンセリングについて知っている外国人留学生も、60.3-63.2%いた。また、保健管理センターで提供されている心理相談を利用したことがある外国人留学生のうち、59.3-71.8%が満足していた。すなわち、心理相談が提供されていることは多くの留学生に知られており、満足度も高かったことが窺える。しかし、9.9-12.5%の留学生は心理相談が提供されていることを知らず (留学生のためのカウンセリングについては36.3-39.0%)、利用者のうち7.4-11.4%は満足していなかった。相談窓口に関する広報を強化することに加え、相談可能な内容についても、情報提供をしていく必要がある。特に、留学生のためのカウンセリングに関しては、英語での相談が可能であることも加え、情報提供していく必要がある。同時に、7.4-11.4%の利用者が満足していなかった理由についても探索し、心理相談の提供方法に改善を加える必要がある。

必要に応じて、カウンセリングを受けようと考える留学生は69.8-73.5%であったが、必要であっても、カウンセリングを受けないと考える留学生は25.5-28.9%であった。その理由として、問題ないこと (11.0-14.4%) や自分で解決する (12.7-28.3%) など留学生の健康度の高さが窺える回答

や、友人に相談する (15.9-18.6%)、家族に相談する (7.4-10.5%) など他のサポート資源の存在が窺える回答があった。その一方で、カウンセリングに対する不信感や不安 (1.4-4.8%)、相談機関のことを知らないこと (0.0-3.1%)、相談したことが知られたときの心配や相談することが迷惑であると思うこと (0.4-1.4%) など、カウンセリングに関する間違った情報や考えによって、カウンセリングを受けることが阻害されるような回答もあった。言語問題 (3.7-4.4%) を相談しない理由にしている留学生もおり、留学生のためのカウンセリングは英語での対応も可能であることを知らないことが推測された。

3. 今後の課題

保健管理センターが提供する心理相談について知っている留学生は多く、利用者の満足度も高かった。しかし、知らない留学生も少なくなく、留学生のためのカウンセリングについては36.3-39.0%の留学生が知らなかった。また、問題が生じたときに相談する相手がいない留学生が3.4-4.4%おり、相談窓口に関する情報提供の重要性が明らかとなった。具体的には、カウンセリングの方法やプライバシーの保護などについて分かりやすく伝えていく必要がある。困り事について相談ができ、相談することが安全であることを知ってもらい、保健管理センターを活用してほしい。また、相談相手になりえる友人を作るきっかけとして、国際センターが提供する国際交流プログラムなども活用してもらえるように、必要に応じて情報を提供していくことも大切である。情報提供の方法についても改善が必要である。入学時のオリエンテーションや健康診断時に相談窓口の案内を行い、インターネットを通じた情報提供も行っている。しかし、学生個人に、確実に案内が届くような工夫が必要であると考えている。

【謝辞】

「留学生の学習と生活に対する支援調査」の作成・実施を共にしました、中矢礼美先生、横山美栄子先生、北仲千里先生、棚田孝志さん、梅下健

一郎さん、甲田政道さん、宮 秀貴さん、田中孝憲さん、小倉亜紗美さん、車地友理さん、大山文望さん、桑原晶子さんに、心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構：平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果，2015.
- 2) 小島奈々恵，内野悌司，磯部典子，他：保健管理センターにおける留学生相談—広島大学での留学生支援— CAMPUS HEALTH, 50(1): 448-449, 2013.
- 3) 小島奈々恵，内野悌司，磯部典子，他：保健管理センターにおける留学生支援—学内外の他機関・他職種との連携について— CAMPUS HEALTH, 52(1): 296, 2015.
- 4) 小島奈々恵，内野悌司，磯部典子，他：保健管理センターにおける留学生支援—現状と課題— CAMPUS HEALTH, 51(1): 559-560, 2014.